



タブレット端末を利用した現地調査システムについて紹介します (1/2)

今回紹介する団体: 水土里ネット奈良

取組概要

内容: 本県では、平成23年度より水土里情報データを活用した「農地地図情報システム」に加え、現地調査用端末機の運用を行ってまいりました。現地用端末機に航空写真、農地筆、水利施設等を重ね合わせ各種現地調査業務(多面的支払、中山間直接支払や水利施設の機能診断等)に活用されています。運用開始から約5年が経過し、今回、本体システム及び現地調査用端末機の大幅な改良を行い、より利便性の高いシステムの構築を行いました。

経緯:

- ①従来の現地調査用端末機は、測量機器のPCとGPSを連動させ利活用を行っていたことから、非常に重く動きづらかった。また、カメラ機能がないためカメラは別に持参していた。
- ②現地調査時において、位置情報や属性情報の確認、コメント入力などの操作が煩雑で作業に時間を要した。
- ③調査完了後に、本体システム「農地地図情報システム」へのデータ移行がスムーズではなかった。
- ④これらの不具合を改善する為、現地調査端末機をタブレットPC (GPS・カメラ内蔵)に変更、また、現地調査用アプリを見直し、日々の業務において誰もが簡単に使える利便性の高いシステムの構築を目指した。

旧 現地調査用端末機



- ・PC+GPSによる2台構成
- ・外付けマウス、キーボード、タッチペン
- ・約2,800g
- ・Intel core i5 128HDD win7

新 現地調査用端末機



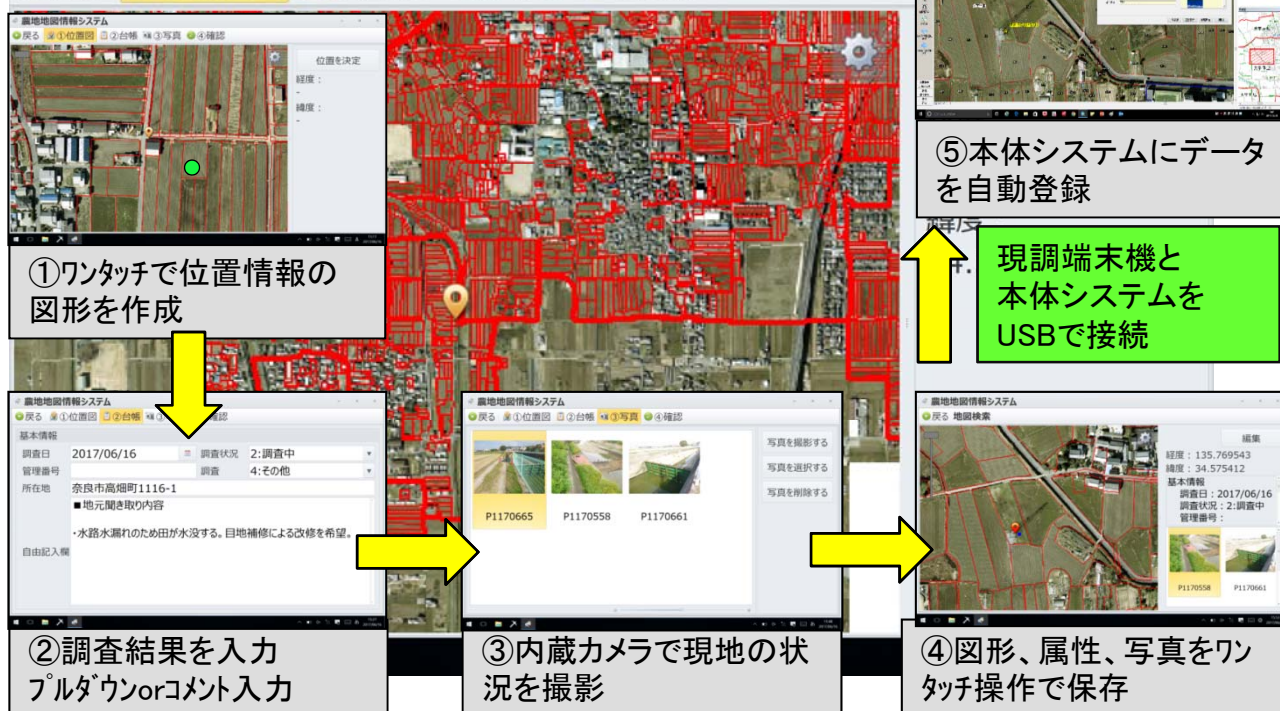
- ・タブレットPC (GPS・カメラ内蔵)
- ・タッチパネル
- ・約990g
- ・Intel core i7 256SSD win10

期待される効果

- ①タブレットのみで、現地確認が可能。
- ②操作が直感的になったことにより、現地調査業務の作業性が向上。
- ③コメント入力が容易になったことにより、詳細な情報の管理が可能。
- ④本体システムへ同期させることにより、スムーズなデータ移行が可能。
- ⑤いつ、だれが、どこで、どのような調査、あるいは、どのような対応を行ったかなどの履歴情報の一元管理が可能。

現地調査用端末機

戻る ①位置図 ②台帳 ③写真 ④確認



今後の活用予定

- ①経営所得安定対策、多面的機能支払交付金、中山間地域等直接支払制度
- ②農地利用状況調査、農地利用意向調査
- ③災害、事故対応、現場施工管理、施設管理・診断
- ④地元要望・苦情聞き取り調査

GISシステムのバージョン情報

GISアプリ : 県独自GISアプリ(スタンドアローン運用)
 タブレットアプリ : 県独自GISアプリ

■お問い合わせ先

奈良県県土地改良事業団体連合会 (農地地図情報センター) 0742-26-1310
 農林水産省農村振興局整備部設計課計画調整室(愛宕、沖) 03-6744-2201(直通)